

八丈島 水産だより

6月号
2019年



アカハライモリ(婚姻色)

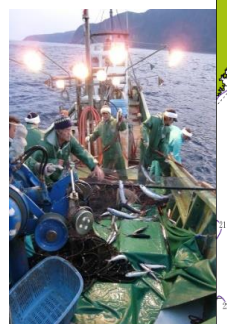


夕暮れ時の八丈小島

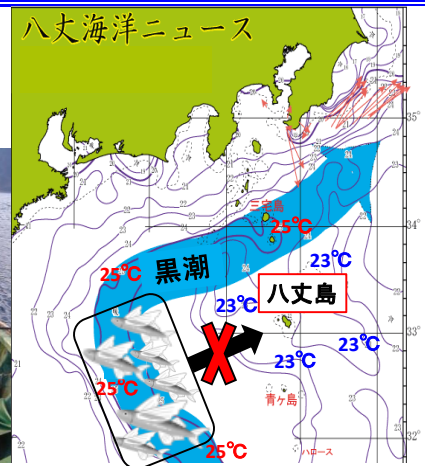
一年で最も日の長くなる夏至が近づき、西日も日に日に強くなってきています。海岸沿いからは夕日が八丈小島に沈んでいく様子を見ることができ、空のグラーションと小島のコントラストが絶景です。また、和泉親水公園では紫色の婚姻色を持ったアカハライモリを、ホタル水路では発光するホタルを観察することができ、夏の近づきとともに生物の生命力を感じます。

■ 最近の漁模様

3月から始まったトビウオ漁が5月に終わりました。ここ数年では2017年に次いで水揚げが少ない結果となりました。これは黒潮が島から遠いために水温が低く、トビウオが島の周りを回遊しなかったことが原因だと考えられています。一方でアオダイやハマダイは昨年よりも多く水揚げされています。8月から始まるムロアジ漁にも期待がかかります。

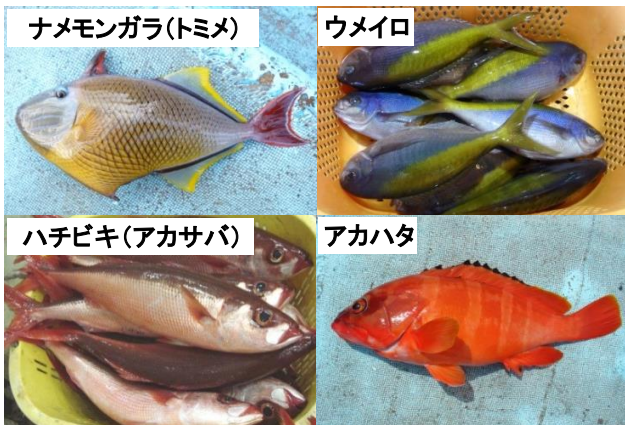


↑トビウオ流し刺網漁の操業風景



↑黒潮の流れとハマトビウオの回遊の模式図

■ インスタ映え？ カラフルでおいしい八丈島の魚たち



八丈島の魚といえば、キンメダイやハマトビウオ、ムロアジなどをイメージする人が多いのではないのでしょうか。しかし漁港では他にもいろいろな魚が水揚げされます。ナメモンガラ（トミメ）、ウメイロ、アカハタ、ハチビキ（アカサバ）、アオダイなど、色彩豊かな魚たちは、味もとてもおいしく、家庭の食卓を豊かにしてくれます。中でもトミメは毎月第3土曜日の八丈島漁協女性部朝市でも大人気です。ぜひお試しください！